

甲状腺外科草子 152

心に響く歌詞：大学時代

杉野 圭三

大学時代にはフォークソング絶頂期の影響の残るミュージシャンがまだ多く残っていた。

荒井由美

ユーミンのデビューは1973年、筆者は当時、教養部2年生の時だった。



従来の流行歌と全く異なる独特のリズムをもつ音楽は斬新で衝撃的だが、歌詞に関しては普通のものである。蛇足ながら、荒井由実の誕生日は小生と同じ1954年1月である。

かぐや姫

「南高節とかぐや姫」のデビューは1970年、深夜ラジオで流れた「酔いどれかぐや姫」の印象は強烈だった。独特の「シャーラ！」の響きは頭に焼き付いて離れない。



「神田川」の大ヒットは1973年、その後の「22才の別れ」、「妹」なども続いたが、1975年に解散となったのは残念。

吉田拓郎

御存知、広島出身（皆実高校）。「落陽」、「旅の宿」など多くのヒット曲がある。



「我が良き友よ」は「かまやつひろし」に1975年に提供した曲である。

「下駄を鳴らして奴が来る、腰に手ぬぐいぶらさげて」

「古き時代と人が言う、今も昔と俺は言う」大学時代を思い出させる曲である。

アリス

初期の「走っておいで恋人よ」、「遠くで汽笛を聞きながら」なども良かったが、「冬の稲妻」は卒業間際、国家試験の追い込み中に大ヒットした。

「音楽性の違い」を理由として解散となったが、その違いが何か未だに良く分からない。



井上陽水

「氷の世界」、「夢の中へ」などはマネのできない独特な異世界のようなリズム感がある。

個人的には、後年に発表された「少年時代」（1990）の歌詞が好きだ。

「小椋佳」や「中島みゆき」は長くなりそうなので、別の章で述べる。

ビリーバンバン

菅原孝、進兄弟のコンビは「白いブランコ」がヒットし有名となった。

その後、石坂浩二作詞、坂田晃一作曲による「さよならをするために」がテレビドラマの主題歌となり80万枚を超える売り上げを記録した。

「過ぎた日の微笑みを みんな君にあげる
ゆうべ枯れてた花が 今は咲いているよ」

「昇る朝陽のように 今は君と歩く」

「風に吹かれて 胸に残る思い出と

さよならをするために」

石坂浩二の意外な才能に驚かされる。素直なリズムと歌詞が調和している。

参考資料：Wikipedia など

（ 一甲状腺外科医の徒然なる随想 ）

2025年9月25日